

同性婚を認める国・地域



愛知県高浜市「パートナーシップ宣誓制度」（昨年4月に開始）第1号の柴口征寛さん（53）＝日本共産党市議＝と、パートナーで台湾出身の劉靈均さん（38）＝大学非常勤講師＝に話を聞きました。（東海総局＝玉田文子）



愛知県高浜市「パートナーシップ宣誓制度」（昨年4月に開始）第1号の柴口征寛さん（53）＝日本共産党市議＝と、パートナーで台湾出身の劉靈均さん（38）＝大学非常勤講師＝に話を聞きました。（東海総局＝玉田文子）

命・尊厳守る教育を

台湾出身の劉靈均さん

台湾で同性婚が実現して4年。劉さんは「これで自分も結婚できる」と希望を感じた。当時を振り返ります。

台湾では同性婚やジェンダー平等教育が進み、「差別を許さない土壌が広がっています」。

一方、同性婚が議論される過程でデマが拡散され、傷つけられた当事者がいたことも忘れられないと言います。トランスジェンダーへの差別も根強く残り「運動はまだ続いている」と強調します。

来日して11年。日本とアジアをつなぐLGBTQ団体の共同代表を務めます。「他の人と少し違うと思う人でも否定されることがなく生きていけるように」と市パートナーシップ制度創設を申し入れ実現させました。一人権として対等な権利を回復するという観点が大切です。

「ばれちゃいけない」二人が交際してすぐの頃、柴口さん宅の来客に応じようとした劉さん大慌てで部屋の中に引張り込んだことを今でも覚えています。これまでも差別や偏見への不安から、自身がゲイであることを家族や友人の誰にも打ち明けてきませんでした。

愛知・高浜 柴口征寛さん

権問題に取り組む「自分と全く違う」劉さんと出合い、食事や家事を共にするうちに「これが人間の暮らしなんだ」と心温かくなった。もう好きな人を隠すのは嫌だと思ふようになりました。思い切って周囲に公衆を公表するとすんなり受け入れてくれ、逆に驚かされました。劉さんと出合い、台湾で同

好きな人隠すの嫌だ

性婚が実現していることを知り「日本と違ってだいぶ進んでいる。日本はまだ住みにくい国です」。

4月の市議選では「苦しんでいる当事者の希望になれば」とパートナーの存在を明らかにして初当選しました。差別や偏見をなくすることが一番のテーマと言います。「議会では何ができるのか勉強中です。（愛知県）高浜市から誰もが自分らしく生きられる社会にしたい」

同性婚4年♡台湾は今

特集 すいよう

LGBTQ レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性とは異なる性を自認する人）、クエスチョニングやクィア（自分の性のあり方について特定の枠に属さない、分からない人など）の頭文字をとったもの。



25万人が集まった同性婚合法化を求める集会＝2016年12月、台北

（台北＝小林拓也 写真も）

主要7カ国首脳会議（G7広島サミット）を通じ、日本で同性婚や差別禁止の法整備が遅れていることが改めて浮き彫りになりました。特別法の制定（2019年5月24日）でアジア初の同性婚を認めた台湾では、4年がたち1万組以上が結婚登録をしています。台湾の現状や当事者の思いを取材しました。

運動が法整備へ道

3年半ぶりに訪れた台北市の中心部。横断歩道が虹色になり、以前より、同性カップルの姿が目立つようになりました。

ゲイであることを公表し、40年近く前から同性間の婚姻を求めてきた鄭家威さん（64）は言います。「当時、保守派が主張した社会の混乱などは何も起きていない。誰も損害を受けていないし、多くの人が利益があった」

台湾でLGBTQ運動が始まったのは1987年に戒厳令が解除されて以降です。民主化に伴い市民運動が活発化。LGBTQの権利を求める

る団体も発足しました。2003年に台北市で、LGBTQパレードが始まりました。毎年のように参加者が増え、19年には過去最多の20万人以上のパレードとして、世界中から人々が訪れるまでに成長しました。

転機となったのは16年5月、当事者の声を受け、「婚姻の平等な権利」を主張した民進黨の蔡英文政権が発足したことです。同年12月には台北市内で同性婚の合法化を求める集会が開かれ、25万人が参加。法制定への機運が高まりました。

17年5月、憲法解釈を行う司法院大法官會議が、同性婚を認めていない民法を違憲と判断。19年5月の立法院で特別法が制定されました。裁判で同性婚の合法化を求め続けてきた鄭さんは言います。「ある人たちが幸せになることに、他人が反対する権利はない」（台北＝小林拓也 写真も）